

平成29年度 地域懇談会 報告	
日 時	平成29年11月29日（水） 午後6時から7時10分まで
場 所	大久保交流センター
出席人数	(1) 市 民 10人 (2) 事務局 教育長、教育部長、学務課長、学務課課長、 適正配置推進室職員 計13人
内 容	(1) 教育長あいさつ (2) 学校適正配置の検討趣旨について、教育部長から説明 (3) 学校適正配置基の検討状況について、事務局から説明 (4) 意見交換
意見交換	<p>(意見) (大久保学区)</p> <p>先生方がとても忙しい。職員室には遅くまで明かりがついている。子どもたちの教育のためには教員の健康も大切。先生が健康でなければ、子どもたちに良い教育はできない。</p> <p>統合して学校が少なくなれば、(相対的に)教員も減る。事務的なことや給食費の集金、保護者の対応などは専門職に任せ、教員が子どもたちの指導に専念できるようにしてほしい。</p> <p>(事務局)</p> <p>基本方針は、子どもたちの学習環境をより良くする視点から整理しているが、そのためには、先生方が授業に専念でき、子ども達と向き合えるようにすることが重要と考えている。適正配置により学校数が減ることで、必ずしも教員が減る訳ではない。全体的な取組の中から先生方の負担を軽減し、子どもたちに向き合える時間を確保していきたい。</p> <p>(教育長)</p> <p>資料にある「学校の新たな「かたち」づくり」に関わってくると思う。人と人との関わりの部分もある。家庭の状況などについても、何でも先生に関わりが求められる。それも大切だが、もっと学校を開いて「チーム学校」として、他の大人が関わるところは関わっていただくようにしていきたい。</p> <p>(質問) (大久保学区)</p> <p>アンケートの結果で少人数指導が良いとなっているが、1クラスの人数はどの程度と考えているか。</p> <p>(事務局)</p> <p>学級の標準規模(定員)は、茨城県の場合は、小学2年生までは35人、小学3年生以上は40人。小学3年生以上は国の基準どおりであるが、進級するとき大きな人数の変化にならないように弾力的な運用をしている。(小2まで40人の場合は、20人ずつの2学級であるが、3年に進級すると1学級になる。茨城県では、このような学級には非常勤講師を配置し、2人の教員で子どもたちの指導に当たっている。)市教委の判断で、学級を増やすことはできない。</p>

日立市では、特別支援学級に在籍する児童が通常の学級で過ごすことにより35人を超える学級には、独自の事業として非常勤講師を配置している。（*）

（*）「学級」には、通常の学級と特別支援学級の2種類があり、児童生徒はどちらかの学級に在籍することになっている。通常の学級の基準（35人、40人）には特別支援学級在籍の児童生徒は含まれないため、日立市では、特別支援学級に在籍する児童生徒が通常の学級の活動（授業や行事）に参加することで35人を超える学級に非常勤講師を配置し、2人の教員で対応している。

（質問）（大久保学区）

幼稚園の計画はどのように進めているのか。

（事務局）

幼稚園については、保健福祉部子ども施設課で担当しているので、答えられる範囲でお答えする。

子どもの数が減り、幼稚園に通う子ども数も減少している。市内には公立私立で多くの幼稚園があるが、私立幼稚園の運営に影響を及ぼさないように、入園児数減少への対応は公立幼稚園で調整することを基本としている。

河原子幼稚園は地震の影響が大きく、危険で使えなくなってしまったので近隣の公立や私立の幼稚園に移っていただき、休園を経て今年の3月に廃園とした。

（質問）（大久保学区）

幼稚園がないと魅力が落ちて、人口が減ることにもつながる。

大久保地区では児童館がなくなり、子どもたちの遊ぶ場所が少なくなってしまった。遊べる場所の整備について、どのように考えているか。

（教育部長）

条件はあるものの放課後児童クラブが全校にある。

公園に1人で遊んでいても危険。児童クラブは保護者が迎えに来るので安全だが、親御さんに負担はかかる。

現在は、幼稚園の需要が落ち、保育園に移っている。保育園は予想以上に需要が伸びている。そのような中で、公立幼稚園の役割が変化している。特別な支援が必要と思われるお子さんが増えているが、そのようなお子さんを受け入れていくのが公立の役割だと思っている。私立幼稚園の需要も減りつつあって、保育に転換している。今後は、教育的な指導をしながら保育ができる形態である認定こども園が増えてくる。

（意見）（大久保学区）

学校間格差が大きい。建替や改修のない学校は、トイレ、備品が古い。

テレビなども古く、IT機器を使って授業がしたくても、端子がなくてつなげない、黒板が古くてでこぼこしているなどの話を聞く。

適正配置を検討していく中で、設備や備品の充実を図ることも検討してほしい。

（教育部長）

人が増えていたころに作ったものを維持していくことが難しくなっている。箱物（施設）をどうしていくかが課題になっている。学校の新旧の

格差を埋めていくことも課題になっている。そのための適正配置ではないが、学校運営の効率化も経営という面からは考えていかなければならない。

(教育長)

小学校の黒板の件は、対応させていただいた。テレビやパソコンについても、順次更新していく。これからの子どもたちには必要なものだ。

(質問・意見) (大久保学区)

適正配置の具体的な再編計画と再編完了期間はどのくらいと考えているか。

地域には、コミュニティや地区社協など小学校を単位としたいろいろな組織がある。それらをどうするのか並行して考えていかなければならないと思う。我々も考えなければならぬと思っているので、進め方については、情報提供してほしい。

(事務局)

児童生徒数の減少傾向を見ると、少なくとも10年先を見越して検討していかなければならないと思っている。施設の老朽化や耐震化で急がなければならない学校、時間をかけて合意を整えていかなければならない地域もある。様々な地区組織の再編も並行して検討を進めていく必要がある。庁内でも関係課と連絡調整を行っている。再編の仕方は、地区によっていろいろな在り様が考えられる。それぞれ話し合いながら進めていくことになると思う。

(教育部長)

計画ができた後は、各地区で協議会を作り話し合っただこうと考えている。全地区で足並みが揃うことはありえないだろうから、その間に、コミュニティ活動や防災などを、どのように維持していくかは、皆さんで知恵を絞って考えていかななくてはならない。学校の適正配置にコミュニティの再編を合せることにこだわると、先に進めなくなる。検討を始めた理由の1つは、将来に後悔したくないから。これは大人の責任として考えていくことだ。本筋を押さえたら、我慢できるところは我慢していただくことも必要と考えている。

(意見) (大久保学区)

小さい学校の保護者から、施設整備が進まないのは廃校になるからだと言われている。そのようなことにならないようお願いしたい。

(教育部長)

施設整備は、学校施設整備計画に基づいて行っており、予算が付けば整備する。トイレの改修も計画どおりなら再来年には完了する。適正配置とは関係ない。こちらでも、いろいろな噂を聞いている。

(事務局)

不安から噂になると思うので、正確な情報を伝えていきたい。地域懇談会もその機会と考えているので、周りの方に今日の話伝えてほしい。

計画ができた後も、決まったことについては、できるだけ早くお伝えしていきたい。検討委員会の内容やアンケートの結果、前回の地域懇談会の結果もホームページに公開しているので、ぜひ、参考にしてほしい。

(質問) (埴山学区)

地域懇談会での保護者の割合はどの程度か。保護者に対する説明会は行

っているか。

(事務局)

参加者の3割程度である。昨日、市P連の役員会に行き、意見交換を行った。今後は、単P（学校ごとのPTA組織）との意見交換もできたら良いと考えている。

(意見) (埴山学区)

疑心暗鬼から噂が出る。丁寧に進めてほしい。

以上